

カキ生育情報

千葉県
平成27年9月号

平成27年8月の気象

平成27年8月の半旬別の気象を表1に記した。平均気温は、第1から第3半旬までは平年より高く、第4半旬以降は平年より低かった。月平均気温は25.7℃で、平年より0.2℃低く、前年より0.2℃高かった。

降水量は、第1から第3半旬までは平年より少なく、第4半旬以降は平年より多かった。月合計は180mmで、平年の135%、前年の290%であった。

日照時間は、第1から第3半旬までは平年より長く、第4半旬以降は平年を下回った。月合計は197時間で平年の90%、前年の92%であった。

台風は14号と16号が太平洋沖を通過し、15号は九州に上陸した後日本海側へ抜けたが、直接の影響はなかった。

表1 平成27年8月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温(℃)			降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	27.9	25.9	27.0	0	18	0	58	37	53
2	27.1	26.2	26.2	0	26	12	53	37	32
3	27.1	26.3	26.0	7	25	26	39	36	29
4	25.8	26.1	26.9	98	15	0	6	35	63
5	24.7	25.9	25.6	20	19	8	32	35	32
6	22.2	25.4	21.8	56	29	18	9	40	5
平均/計	25.7	25.9	25.5	180	133	62	197	220	213

果実の発育

8月31日現在のカキの果径は表2に示した。横径は、「西村早生」及び「松本早生富有」では2地区の平均でみるとそれぞれ6.57cm、6.48cm、「富有」では6.10cmであった。本年の横径は、「西村早生」では平年より6%、前年より10%大きかった。「松本早生富有」は平年より5%、前年より7%大きく、「富有」では平年より5%、前年より1%小さかった。

縦径は、「西村早生」と「松本早生富有」では2地区の平均でみるとそれぞれ4.83cm、4.84cm、「富有」は4.70cmであった。本年の縦径は、「西村早生」は平年より6%大きく、前年より5%大きかった。「松本早生富有」では平年より8%、前年より6%大きかった。「富有」では平年より5%小さく、前年より2%大きかった。

果形指数は、「西村早生」及び「松本早生富有」では2地区の平均でみるとそれぞれ1.36、1.34、「富有」では1.30であった。本年の果形指数は「西村早生」と「富有」は平年並み、「松本早生富有」は平年より小さく、やや縦長の傾向であった。

果実の生育は順調で、収穫期は平年とほぼ同様に9月中旬から10月上中旬までと予想される。

表2 果実の発育（8月31日の果径）

品 種	調 査 地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
西村早生	いすみ市	6.37	6.16	6.37	4.77	4.58	4.89	1.34	1.35	1.30
	暖地園研	6.76	6.26	5.62	4.88	4.57	4.26	1.39	1.37	1.32
	平 均	6.57	6.21	6.00	4.83	4.57	4.58	1.36	1.36	1.31
松本早生富有	市原市	6.44	6.05	5.89	4.84	4.33	4.59	1.33	1.40	1.28
	暖地園研	6.51	6.28	6.22	4.84	4.66	4.57	1.35	1.35	1.36
	平 均	6.48	6.17	6.06	4.84	4.50	4.58	1.34	1.37	1.32
富 有	暖地園研	6.10	6.42	6.16	4.70	4.93	4.62	1.30	1.30	1.33

果形指数：横径／縦径

平年：暖地園研は1990年～2014年の平均、いすみ市、市原市は1998年～2014年の平均

9～10月の作業

収 穫

「西村早生」の収穫が始まり、いよいよ収穫シーズンの到来である。カキの果実は樹上で成熟しながら大きくなり、収穫後に品質が向上することはない。早採りすれば、大きさ、品質の面で適熟の果実より劣り、消費者にカキ本来の味を提供できなくなる。したがって、早採りは避け、収穫前にはカラーチャートを用い適熟の色を確認し、適熟果の収穫に努める。適熟の色はへた部の果皮色で判断し、「西村早生」、「富有」はへた部4、「松本早生富有」はへた部4.5を目安にする。「西村早生」では、渋果の混入を防ぐため、必ず渋果判定機による選別を行う。

追 肥

貯蔵養分の多少は、翌年の樹の生育と着花量を左右する。貯蔵養分を蓄積させるため、礼肥を施す。「西村早生」などの早生品種では収穫直後の10月中旬頃、「松本早生富有」、「富有」及び「次郎」などの中晩生品種では着色初期となる10月中下旬頃を目安に、速効性肥料で施用する。窒素の成分量で、年間施肥量の15%程度となる2～3kg/10aが適当である。

病虫害防除

9月上旬～中旬にカキノヘタムシガ、コナカイガラムシ類を防除するため、バンド誘殺を行う。カキノヘタムシガの被害果は地中に埋没する。炭疽病又はうどんこ病の発生が多い園では、9月下旬までが防除適期である。防除の際には、早生品種と中晩生品種の混植園では収穫前使用日数に十分注意する。これらの防除は、千葉県農作物病虫害雑草防除指針に基づいて行う。

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>